



都市デザイン研究室 2011 年を振り返る —Teachers told us their memories in 2011—

text_matsumoto

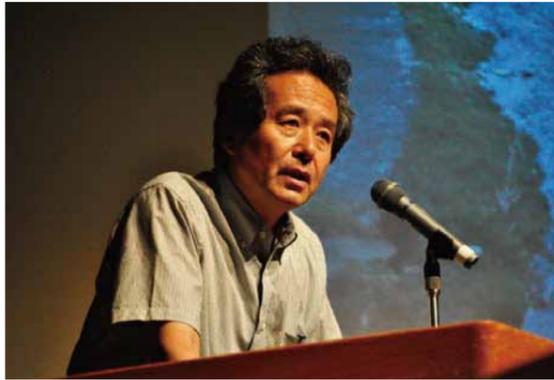
2011 年も残すところあと約 3 週間。2011 年、先生方にとって最も心に残ったこととはなんですか。また、来る 2012 年に向けて抱く思いとは。5 人の先生方に語っていただきました。

The rest of this year is only three weeks. What is the most unforgettable thing for teachers? How do they hold the vision for 2012?

西村 幸夫 教授

一瞬を大切に

— Enjoy every moment —



▲足助のシンポジウムにて講演する西村先生

2011 年を振り返って心に残った場所

なんといっても津波の被災地。訪れたどこもおなじように心に刻まれています。

2011 年を振り返って心に残った出来事

なんといっても東日本大震災。まもなく人生もいかにいかないものであるのかを実感しました。

東日本大地震に関連したものを除くと、個人的には 4 月からきんばす計画室長に就任したことが大きな変化です。週 1 回の事務局との打ち合わせ、月 1 回のキャンパス計画室会議、その間の各種調整でかなりの時間を取られています。しかし、多くの機会に東大キャンパスのい

ろんなところを訪れ、いろんなことを思うようになりました。これまでも 30 年近く学んだり、働いたりしてきたので、よく知っているつもりでしたが、それは自分の身の回りだけで毎週のように新たな発見をしています。たとえば、1 泊 60 万円を超える費用のかかる病室とか、工学部 3 号館の立て替えを巡って埋蔵文化財の発掘調査をしたところ、平安時代の竪穴住居が出てきたり、江戸時代の三四郎池の排水施設がでてきたり、小石川植物園では 300 年を超える歴史が各所に残されていることを知ったり・・・その一端を忘年会の写真でお見せしたいと思います。

2012 年に向けて

人生ははかないものであるからおさら一瞬を大切にそしてささいなことであっても世界のために何か役に立つことをやりたいと思います。

研究室の学生に一言

人生ははかないのだから、一瞬のなかに永遠のことが見えるものなのかもしれません。今から 30 年前、研究室の大部屋で作業に明け暮れていた日々のことを思い返すと、そこには今なお胸が熱くなる都市への想いがありました。それをいまま私の身体は引きずっているのです。

窪田 亜矢 准教授

1 年間大槌町に関わって

— A year with Otsuchi-cho —



▲APSA のワークショップでの窪田先生

2011 年を振り返って心に残った場所

2011 年の強烈な記憶は、やはり大槌町であり、赤浜です。

2011 年を振り返って心に残った出来事

ゴールデンウィーク、城山から見渡した市街地。そこで被災者の方と直接話したとき、それまでの暗中模索状態が、かたっと音をたてて変わりました。海洋研の荒れた敷地に座り込んで話した漁師さんからは、自分の観念がいかに狭くて限定されたものであることを思い知らされました。地域のリーダーは、信念のもとで懸命に戦っていました。その壮絶さを、ドキュメンタリー番組をみて知りました。浪板の海に映る月光の、息をのむほどの美しさを、もう素

直に美しいとは言えなくなりました、とおっしゃるタクシーの運転手さんに返す言葉はありませんでした。赤浜で地域住民によるまちづくりが動き出しました。その話し合いが終わって体育館から出たとき、海に沈む夕陽のもとで小学校のグラウンドは紫色の空気に包まれていました。自衛隊の設営してくれた銭湯からあがって一息つく人、野球をする子どもたち、一杯はじめた漁師さんたち、それらの風景を見守る老齢の櫻の樹、、、これが赤浜の日常なんだと思いました。そしてこのかけがえのない日常を取り戻すために、過去を決して忘れず、未来にも顔を向けようと思ったのだ、と合点がいった瞬間がありました。学生のみなさんによる模型を、見つめる

地域住民の 皆さんと、きちんと向き合いたいと願いながら、コーディネーターとしての時間を過ごしてきました。復興食堂の海鮮丼 500 円、せめて訪問者値段をあげたら良いのに、と余計なことを言ったら助けてもらった恩返しがいんです、と店員さんから笑顔を返されました。

研究室の学生に一言

学生のみなさんには色々と一緒にやりながら、中途半端になってしまって申し訳なく思っています。状況も、自分の考えも、どんどん変わっていくなかで、適切な情報提供や議論の場づくりができませんでした。許してください。総括は先になりそうですが、いつか一区切りがついたら、報告しますね。

永瀬 節治 助教

この土地で生きるこの意味

2011 年を振り返って心に残った場所

「この土地で生きる」ということの意味を突きつけられた 2 つの場所。一つは五箇山・相倉集落。山間の斜面地に生育するカリヤスが合掌の屋根になるまでの手間と労力は計り知れないものですが、それはこの地で生活を営む上での必然性に裏打ちされています。もう一つは、大槌。

2011 年を振り返って心に残った出来事

震災後の 4 月半ばに東北大学の同期と沿岸部をまわった際に目にした光景は、深く心に刻まれています。そして 5 月の末、安渡小学校の廊下にビニールシートを敷いて行なわれた住民会議の、張りつめた空気。その後の大槌町との関わりの中で被災地の多くの現実を知るとともに、地域の方々の強さに私自身も勇気づけられました。

2012 年に向けて

地域に学ぶだけでなく、自分なりに地域に還元できる具体的な何かを、実践・研究ともに追求していきたい。

研究室の学生に一言

人に何かを伝えること / 人が感じていることを受け止めること。まちづくりの基本は一筋縄でいかない、人と人とのコミュニケーションにあるのだとつくづく感じます。議論し、時には考えをぶつけ共感する。多様なバックグラウンドを持った仲間が集まる研究室そのものがまちづくりの実験室です。それぞれのスタイルで日々の経験値を高めてください。



黒瀬 武史 助教

考えやアイデアを大切に

2011 年を振り返って心に残った場所

大槌：震災直後の何もなくなった市街地と本当に少しずつですが行く度に市街地が再興されていく姿の両方が強く印象に残っています。鹿児島：中央公園の朝日通りから見る桜島の姿。本当に美しい！

清水：実は個人的に気になっているのは、折戸湾に残る貯木場の痕跡。メデジン（コロンビア）：インフォーマルセクターを公共空間の力で変えようとしている Santo Domingo 地区、San Javier 地区の取り組みを見て、都市の空間に関わる者として勇気づけられました。

2011 年を振り返って心に残った出来事

食い入るように将来像の模型（3 年生有志がベースを作ってくれました！）を見つめる大槌町・赤浜の方々の姿が、強く印象に残っています。ルンビニチームで 1 月に設計した遊歩道が 7 月に完成していて、嬉しいとともに、そのスピードに驚きました。もちろん、全てが思うようには行きませんが。。

2012 年に向けて

一つ一つの物事をじっくり考えて、しっかりと腰を落ち着けて、取り組みたいと思います。

研究室の学生に一言

毎日忙しくて大変だと思いますが、自分の「考え」や「アイデア」を大切に、研究もプロジェクトも精一杯がんばってください。



松田 達 助教

いつでも全力投球

2011 年を振り返って心に残った場所

上海の蘇州河展示センター。汚染の進んだ上海第二の河川の再生が、その歴史とともに多様な側面から展示されています。都市と河川の関係を思考できる貴重な場所でした。観光地ではないがゆえに、行く価値があります。

2011 年を振り返って心に残った出来事

磯崎新さんの自宅にお伺いしたこと。はじめて磯崎さんの本を読み始めてから 16 年、ようやく直接にお話することが出来ました。都市工学科のことから、ル・コルビュジエのことまで、実に様々なことをお話ししました。

2012 年に向けて

教育、研究、設計のすべて、そして都市と建築の両者に分け隔てなく取り組み、それぞれの経験をより密に絡ませ、フィードバックしてそれぞれへと返していくこと。それを都市デザイン研究室に、さらに還元していきたいと思っています。

研究室の学生に一言

遠慮をせずに、何でも聞いて下さい。僕はいつでも全力投球です。ともに、議論しましょう。語りましょう。手を動かしましょう。いまという時間を大事にして下さい。研究室での生活が、大切な時間だったということは、必ず後に分かります。



▲《ハイ・ハビネスシティ上海》(2011)

	UD LAB. 研究室全体	ASAKUSA 浅草	ASUKE 足助	KAGURAZAKA 神楽坂	KAGOSHIMA 鹿児島	POPS 公共空間	GOKAYAMA 五箇山	SAWARA 佐原	SHIMIZU 清水	TAKAYAMA 高山	TOMO 鞆	RUMBINI ルンビニ
1 Jan.	● 4/12～22 建築学会まちづくり展											
→ 4 Apr.							● 3/28、29 初現地調査	● 4/26 新メンバー初現地訪問		● 4/2、3 高山市現地報告会		● 12/28～1/10 第1回現地調査 ルンビニPJ始動!
5 May.	● 学会各賞受賞! 不動産学会湯浅賞(江口久美さん) 都市計画学会年間優秀論文賞 (前助教 中島直人さん)		● 5/19、20 現地調査: 住民の方とのWS開催	● 5/10 実測調査							● 5/14～16 現地調査	
6 Jun.	● 都市計画学会論文奨励賞 (前助教 野原卓さん)	● 6/18、19 「光月工房」 小学生向けの 木工教室			● 6/4～8 現地調査	● 6/19 現地調査 都内の公開空を歩いて 調査	● 6/12 初現地調査 自転車です区内をめぐる					
7 Jul.	● 7/30 BBQ大会	● 7/30 夏休みこども木工教室				● 7/25 現地調査 倉庫など歴史資源探索	● 7/9 現地調査 昨年度から行なっている 祭事と生業についての調 査を継続					● 7/9～16 西村教授・黒瀬助教 現地訪問
8 Aug.	● 8/23～25 日本建築学会大会		● 8/6 重伝建選定 記念シンポジウム 「足助の町並みの挑戦」	● 8/17～22 現地調査 鹿大学生とのWS		● 8/3、4 現地訪問 茅屋根の下草刈体験	● 8/13～15 盆ふえすた 「佐原の底力展」					
9 Sep.	● 9/9～11 APSA@東大		● 8/30、9/1 勉強会・建物調査	● 9/29～10/4 現地調査 USKに向けた事前実験		● 9/8、9 現地中間報告 資源調査や住民会議を ふまえた中間報告	● 9/15～18 現地調査 長倉集落にてヒアリング・ 実測調査&調査結果発表					
10 Oct.	● 9/30～10/2 第34回全国町並みゼミ @飛騨市		● 10/29 国登録文化財とまち づくりシンポジウム 吉田、神原発表	● 9/29～10/4 現地調査 USKに向けた事前実験		● 10/18、19 現地調査 社会実験下見&ヒアリ ング	● 10/15、16 鞆雑誌2011お披露目 &記念イベント「とも ラリー」					● 9/30～10/14 現地調査 ヒアリング
11 Nov.	● 11/19～21 都市計画学会	● 11/26、27 「光月工房」	● 11/11～13 現地訪問 うちめぐりに関するア ンケート調査を実施	● 11/15 登録文化財 勉強会 (松井さん発表)	● 11/3～9 社会実験 USK まちの歴史や魅力を 計6ヶ所の"USK"にて 紹介し、人々の回遊 性に変化が見られる かどうかを検証!	● 11/19、20 茅場造成イベント参加	● 11/23 清水みなと社会実験 ウォークツアー・ポート ツアー・パネル展を同時 開催。					
12 Dec.	● 12/8 忘年会					● 12/3、4 佐原の原動力展 建物公開に合わせ、佐原 の震災復興まちづくりの 調査成果を発表。	● 11/24～26 長倉集落にて WS開催					

国際設計スタジオ in ペッカム

M1 安東、仲村が参加した GCOE 国際設計(窪田・太田)スタジオで、5月20日～30日にかけロンドンで現地WSを行いました。

仙台平野南部震災復興スタジオ

M1 浅野、石井、松本が参加した、GCOE 設計(石川)スタジオ。宮城県仙南地域を対象に、復興のための提案を行いました。

まち展シャレット WS

4月17日～21日に全国各地から学生が参加し、震災復興まちづくりのありかたを議論するシャレットWSが開催。M1 浅野、安東が参加しました。

景観開花

東北大主催の土木デザインコンペで、未来へつなぐ街路デザインをテーマにM1 仲村、松本、北川、大森が参加しました。

マガジン編集部

10月28日、初代都市デザイン研マガジン編集長の酒井憲氏による特別講義が開催されました。酒井氏のエネルギーに編集部一同大いに刺激を受けました。

たなカー

D1 鈴木が中心となり活動しているたなカー。今年も各地で大活躍でした! マガジン来月号にその模様を掲載します! お楽しみに!

大槌復興PJ

3月の東日本大震災で被害を受けた岩手県大槌町(東大海洋研究所が所在)の復興まちづくりプロジェクトです。社会基盤学専攻の景観研究室と協働しながら5月の初訪問後、8月からの復興まちづくり住民会議に参加し、地域の住民の方と今後のまちづくりへ向けた意見交換などを行なってきました。10月からは大槌町地域復興協議会コーディネーターの任命を受け、今後も継続的に活動してゆく予定です。

Information

12月・1月の予定

- 12月10日～12月12日 五箇山PJ 現地調査
- 12月21日 第12回研究会会議@先端研
- 12月24日 第13回研究会会議
- 12月27日～1月7日 ルンビニPJ 現地調査

✦ 編集後記 松本 綾

デザ研に来て8ヶ月が経とうとしています。この1年間、プロジェクトを通してさまざまな場所を訪れ、さまざまな人と出会うことができました。M1のみで始動した清水PJ、震災の影響を受け、復興まちづくりに取り組んだ佐原PJなどなど、忙しさに目を回しつつ、少しでもたくさんの方のことに吸収しようとして懸命な1年間だったように思います。そんなことを思い返しながら、必死でマガジン忘年会号を作成する忘年会直前なのでした……。